

「マイペンライ」は、タイ語で「なんでもないよ。気にしないで」の意味。アジアの人々のおおらかな心で交流が広がるようにとの願いを表現しました。

マイペンライ 通 信

編集・発行 アジア保育教育交流推進実行委員会
(略称：大阪マイペンライ)

http://cwoweb2.bai.ne.jp/osaka_maipenrai/index.html

2012年7月1日
No. 87

TEL 072-645-7772

(森代表事務所)

FAX 06-6581-8536

(部落解放同盟大阪府連)

事務局 090-3948-8372 (稲葉)

Jge17901@cwoweb2.bai.ne.jp

2012年度第20回総会ひらく・・・20周年に向けて取り組む

大阪マイペンライは5月29日、PLP会館で第20回総会を開催。総会には会員、団体会員組織からの参加者など約110名の参加をいただきました。

「研修事業で進めてきたことを

大阪でも広めたい」

冒頭、森代表(写真)が会を代表して「これまで皆さんに支えられて活動してきた。あらためて感謝したい。15周年のときに国際ボランティア貯金の助成をいただいて記念事業を始めた。この事業で子どもが楽しめる遊びや親子のふれあいなどが、子どもにとって大切なものであることをお互いに確認してきた。一方、大阪の状況はこれと真逆の方向に進んでいる。府や市では子どもたちに競争させて褒美を与えるというような、貧しい発想で子どもの育ちが語られている流れがある。子どもを見て、中心において考えていくという、この研修事業で進めてきたことを大阪で広めていくことが大切だ。アジアの国々の子どもたちを双方向で育てあっていこうと言うこれまでの活動を支えていただいていますことに感謝し、さらに広がっていくように皆様の活動への参加をお願い申し上げます。」などとあいさつしました。

議事では、結成19年を迎え招聘研修などの主要活動についての第1号議案「活動の経過と方針」を稲葉事務局長より、第2号議案「11年度決算案と12年度予算案」を松尾会計幹事より提案し、続いて田村会計監事から11年度決算監査報告されました。方針の中では、最終年度となる「国際ボランティア貯金」寄付金の配分によるタイ・バンコクでの公開保育研修事業の報告、20周年に向けての検討が提案され、承認されました。さらに、高橋副代表から森代表をはじめとした「2012年度役員体制案について」が提案され、全体の拍手で承認されました。

総会の2部では、シーカーアジア財団のムアイさんと松尾久美さんによる「共に学び、共に生きる・・・4年間の研修事業を振り返って」と題する記念講演をいただきました。(2頁以降)

大阪府各地で交流がはじまります

2012招聘研修・・・タイ(SAF)のスタッフ2名を、3団体が受け入れ

今年の招聘研修は第20回を迎え、6月30日に、タイから2名のスタッフが来日しました。来られるのは、シーカーアジア財団のタブラニー・ポークラーンさんとチャイヤナン・チャンタマニーセンさんで、同行通訳は同財団の松尾久美さんです。

受入れいただく組織は、部落解放同盟大阪府連は日之出支部、大阪教組は摂津市教組、自治労大阪府本部は豊能町職と大阪市職民生支部です。7月1日のオリエンテーションを皮切りに、7月2日から大阪府下のそれぞれの地域・職場で交流が始まります。皆さんよろしくお祈りします。(プロフィール、研修日程はP6～8)

目次 ■第2回総会開く(P1) ■2012年招聘研修始まる(P1) ■記念講演「共に生き、共に学ぶ」(P2～6) ■招聘研修スタッフと日程(P6～8) ■会員となって交流の輪に！寄附金・会費のお願い(P8)



「共に生き、共に学ぶ・・・4年間の研修事業をふりかえって」

シーカーアジア財団 図書館事業責任者 ムアイさん
シーカーアジア財団 国際部責任者 松尾久美さん

昨年の東日本大震災で多くの人が被災されたことに対してお見舞い申し上げます。また、昨年のタイの水害については大変ご心配をかけました。

ムアイさんの紹介

本名はドゥジュディー・ウンソンタムといい、ニックネームがムアイさんです。

1970年クロントイ地区で生まれ、中学校を卒業し、クロントイの幼稚園で働きながら夜間高校に通った。SVAタイ（シーカーアジア財団）に就職する。5年間、他の仕事に就いた後、シーカーに再就職し、図書館活動の事業に就いて、現在に至る。



タイの概要について（松尾久美さん）

タイは世界の中では中進国と言われている。バンコクは大都会だが、東北地方の農村から出稼ぎに来ている人々が暮らすスラム地区が広がっている。北部の山岳地帯にはモン、ミャオ、カレンなどの少数民族の人々が住んでいる。それぞれ自らの文化を守りながら生活している。そのよう中で、タイでは急速な経済発展の一方で格差が広がっている。

シーカーアジア財団の「シーカー」はサンスクリット語で教育という意味。アジアでの教育支援を目的としている。就学前や小学校の子どもたちに対する図書館活動、中学生、高校生に対する奨学金の給付、学生寮の活動などの支援を行っている。

「国際ボランティア貯金」の寄附金配分による事業の実施について（松尾久美さん）

国際ボランティア貯金事業については、大阪マイペンライの役員さんがタイを訪問し、シーカーのスタッフと協議した際、今何が必要かとの議論があった。その中で、タイの教育の現状として格差があり、保育園に対する行政からの支援についても質の問題がある。そこで、大阪で保育、教育に携わっている人にタイに来ていただいてそのテクニックを伝えていただくことで、タイの保育の質を高めたいと考えた。また、この取り組みで大阪の人との新しい出会いがあるとも考え、この事業を実施することとなった。

研修事業の概要（松尾久美さん）

研修教材開発センターの設置後、延べ52回の研修事業を実施してきた。センターの会員数は200名。研修事業には大阪から講師として、絵本の加藤啓子さん、村中先生、子ども情報研究センターからは11名、石井記念愛染園からは5名、大阪市職民生支部からは4名など多くの講師の参加をいただいて実施した。

事業の概要（資料）

本事業は、保育・教育現場の人と人との交流を中心に、長年のご支援を頂いてきたシーカー・アジア財団がパートナーとなり、大阪マイペンライ結成15周年の記念事業として2008年より進めてきました。内容は、シーカー・アジア財団のクロントイ事務所に教材開発・研修センターを設置し、タイの保育・教育に携わる人材の学ぶ場、お互いの交流の場として位置づけようとするものです。4年間を通して36回の研修、参加者はのべ1720人です。（下記表参照）。



2団体の強みを活かし、大阪マイペンライの保育現場での経験豊かな人材、シーカー・アジア財団のバンコク・スラム地区、少数民族地域とのネットワークという、タイの保育・教育に携わる人たちへの新しい視点を提供してきました。さらに本事業は、シーカー・アジア財団の人材育成に大きく寄与しました。日本人講師からの知的・感覚的刺激により専門性およびモチベーションの向上につながっています。

おもな活動一覧

年	活動内容	参加者	備考
2008	バンコク第1回研修会（5/23~25）	72人	

	ターソンヤン郡第1回研修会（10/15~17） ※スラム地区およびカレン族の村に図書コーナー設置	103人	
2009	バンコク第2回研修会（9/3~5） ※ターソンヤン郡カレン族の村の保育園改装 ※カレン族の中学校の学生寮 建築	144人	
2010	ターソンヤン郡第2回研修会（2/19~21） バンコク第1回出前保育型ワークショップ（9/9~12）	76人 377人	対象6か所
2011	バンコク第2回出前保育型ワークショップ（2/17~20） バンコク第3回出前保育型ワークショップ（6/23~26）	95人 100人	対象6か所 対象6か所
2012	バンコク第4回出前保育型ワークショップ（2/16~18） バンコク・教材を考えるパネルディスカッション	90人 78人	対象6か所

研修事業について・・・何をするかではなく、どれだけ楽しむか（ムアイさん）

前半の2年間の研修事業は、50名から100名の保育園などの関係者に集まっていただいて研修を実施した。講師の加藤啓子さんには絵本の読み聞かせなど、また、子どもの育ちに関する講義や日本の保育制度について、保育所での遊びについてなどの講義を受けた。2年間で4回の研修会を実施したが、参加者からは内容について「びっくりした、知らないアイデアを教えてもらい助かった、参加して楽しかった」などの感想をいただいた。しかし、それを実際に保育園などで行うのは難しいとの意見もあった。自分たちはやって楽しかったが、それが子どもたちに理解できるのか心配との声があった。

そこで、実際に研修に参加した人の保育園に行き、日本の講師さんに子どもたちと一緒に保育をしてもらえばということになり、後半の2年間の出前保育型研修、ワークショップを実施することとなった。この出前保育型研修には見学者も参加することができ、実際に子どもたちの活動を見ることで、自分の保育の実践につながったとの感想をいただいた。

また、保護者と子どもと一緒に遊ぶ親子保育を実施した。お母さんやおばあさんが参加されたが、それぞれいろいろな環境の中で生活している中で、保護者からは子どもたちとのこんな時間を今まで過ごしたことはなかったとの感想をいただいた。参加されたおばあさんは、最初は自分なんかがこの来てもいいのかと不安があったが、活動中は恥ずかしそうにしながらも、最後はすごくうれしそうな顔をして帰っていかれた。もちろん子どももうれしそうな顔で帰っていった。

見学者の意見でも出ていたが、一番大事なことは、何をするかではなく、どれだけ楽しむかであることが初めて分かった。同じ時間であっても、家で過ごす日常の時間と、短い時間であっても子どもが楽しめる時間を過ごすことが子どもにとって大事なことだということが分かった。

鬼ごっこの遊びをしているとき、子どもたちは本当に楽しそうにはしゃぎまわっている。この遊びは異年齢が混ざって遊んでいたが、小さい子が巻き込まれて大きい子の下敷きになっていた。これを見て後の意見交換会で、危ない遊びではないかとの指摘があった。講師からは、その時、小さい子が泣いてしまったら止めればいいが、すぐに起き上って楽しんでおり、それだけ夢中になれることの方が大切と考えると答えていただき、みんな納得した。

4年間の研修事業で得たもの

3つある。1つ目はタイの保育のかかわる人々のネットワークが広がったことだ。

シーカーアジア財団はタイのNGOとしてネットワークを作っているが、例えば絵本のワークショップをするということで絵本の出版界とのかかわりを作ることができた。あるいは、大学の教授（村中先生）が講師としてこられるということで、タイの大学とのネットワークができた。また、スラム地区の保育士たちが研修で会うことで自分と同じ環境の中で頑張っていることを知ることができた。そういう同じ目標を持った、同じ悩みを抱える人たちが意見交換できる場を作れたことは大きな成果だった。

2つ目はスタッフの能力の向上となったこと。3つ目は子どもを見る視点が変わったことだ。いろいろなワークショップを通じてスタッフのかかわり方が変わった。



1年目はスタッフは講師のやり方を見るだけで、準備をし、材料を集めたりするが、いざ研修となったら参加者の一人としてみるだけであった。2～3年目は少しずつやり方もわかってきたので、研修の時にどういう風に教えたらいいのかを積極的に学んで、参加者が多くて講師が細かく教えられない場合に、グループに分かれてスタッフがサブ講師としての役割を果たした。講師としての立場でかかわることができた。4年目は最後であるので、メインの講師としての立場でかかわることとし、例えば1時間の研修の中で10～20分の間だけスタッフが講師として、子どもたちや親と向き合う形で講師の役割を果たし、ステップアップさせてもらった。このことが、シーカーのスタッフが地方で研修をするときに、日本の講師に教えてもらったことをタイの人々に実践することができたことにつながり大きな成果であった。

研修の中で見えてきたこと・・・子どもを見る視点

研修で行う保育の中では、いろいろな子どもがいるので、最初から動きに入ってくる子どもおれば、最初は後ろの方にいてだんだん中に入ってくる子どももいる。スタッフもこのような子どもたちの姿を見ることができるようになってきた。

うそつき鬼ごっこの遊びは子どもたちは大好きで、きゃあきゃあと言って遊んでいる。子どもによれば自分が鬼だと気付かずに一緒に逃げている場面があるが、それを一緒に遊んでいる子どもがルールを教えているということが見られた。

大きな女の子のエピソードを紹介したい。自分は年上で、最初は何もせずに外で見ていたが、急にその中に入ってやりだしたら、楽しくなって、遊びの指示を出すのはスタッフだったが、しまいにその子が指示を出していた。

子どもにはやりたいものがあり、周りはそう思う時期を待つことが大切で、子どもたちにとってやりたいことをやるのが喜びにつながることを学んだ。これが講師の方が4年間にわたって伝えようとしたことと思う。

子どもを見る視点ということについて考える。子どものこれまでであったら見逃してしまう変化を把握できるようになってきた。子どもがどういうタイミングで成長していくのかを考えている。日本の皆さんから教えていただいたことである。

今回2月の研修の中で、障がい児の施設で親子のワークショップとしてビニール袋の遊びを実施



した。親と子どもが作りながらのワークショップで、重度の知的障がい言葉が出ない子どもがいたが、すごく興味を示して、楽しそうな表情をし、笑い声を出していた。施設の先生方は初めて見る表情だと言っておられた。お母さんもこの子がこんなに笑ったことがうれしいし、自分に障がいを持った子どもがいること自体がうれしいと言われた。それを聞いてびっくりした。そういう出会いがあるのだなあと思い、そういう場を提供できたこと、日本の方を手を借りてではあるが、そういう時間を共有できたことがうれしかった。こんな

風な出会いが多くあるということが私たちのモチベーションにつながった大きな成果だと思っている。

スラムで育って思うこと（ムアイさん）

自分自身、クロントイで生活し活動してきた。子どものころはスラムとは何か、スラムがどう思われているか知らずに過ごしてきた。自分の家族から教えられたのは、自分守るように。自分は大事な存在なのだから大切にしようということだった。小学校までは地域の中であった。中学校に上がれば外の地域に行かなければならない。友達の多くは小学校4年で辞めて親の仕事を手伝っていたし、クラスの半分くらいは中学校に行っていない。自分が中学校に行きたかったのは、制服がかわいかったからだ。8人兄弟で5人の兄と1人の姉の下で、兄の半分くらいは中学校に行っていない。

自分としては、母親が一人で育ててくれたので、心配かけなくなかった。高校は夜間高校に行き、昼間は地区の中の幼稚園で補助の仕事をしたり、図書館の活動をしていた。移動図書館のスタッフをしていた時、北部の農村に行くことが多かった。その時初めて農村の生活を見ることができたが、スラムと違う質素な生活で、毎日ごはんがあるわけではない。スラム地区の生活は大変だと思って



いたが、それよりもっと大変な子どもたちの状況を見てショックだった。そして、それらの子どもたちと出会えたことがうれしかった。そこで教育に関する仕事ができることが誇りであった。

移動図書館活動で回った中で、ミャンマーの移民の子どもたちはタイの子どもたちより大変な状況の中にあることを知った。私自身、スラムの中で育ったが、自分と同じ境遇の中で勉強する子もいればしない子もいたが、同じ友達として過ごすことができたことは大きなことだった。その視点を持って、ミャンマー難民の子どもたちを見たとき、彼らに問題があるのではなく、世界的な経済の格差やタイの中での格差の問題であって、それぞれの個人の問題ではなく全体的な問題だと思った。それに気づくこととは、人と人がお互いに認め合うことにつながる

のではないかと。違うんだけど同じ人間だし、友達になれると思うことが多分一番大事なことでないかと思う。それをするためにはそれぞれ自分の価値をわかること、自分が大事な存在だと分かっただけで、相手のこともそうだと分かることが大事だと思う。格差の解消という課題は今後の世界の中での大きな課題であるが、それを何とか狭めていくのはこのような交流ではないかなと感じている。

本当に楽しいと思える遊び、絵本を提供すること

移動図書館活動で村に行くが、車は川のようなところを走っていく。村の人々は村に初めて車が来たと歓迎してくれる。ある村の保育園はこの国際ボランティア貯金事業で改修したもので、以前はわらぶきの保育園であった。ミャンマーからの移民の人々はごみの山の中でバラックの家を建てて生活している。ごみの中から売れるものを回収して生計を立てているのだ。移動図書館が行くと子どもたちが集まってくるが、その光景を見た日本の方が、「もしかしたらこの子どもたちにとって今が一生で一番楽しい時間かもしれない」と言われた。私たちにとってはいつもの活動だが、そうかもしれないと思った。子どもたちの日常生活の中では、子どももゴミを拾うことができるので、大事な労働力となっている。こんな生活の中でも楽しく笑うことができる子どもたち。一生に一回かもしれないけれど本当の自分を発見できた瞬間だ。自分の価値に気づくことにつながる。大変な状況の子どもだからこそ、本当に楽しいと思える遊びとか絵本を提供することが大事だ。心の栄養を提供する活動が必要だと思われた。

通訳を通さなくても分かり合える関係に（松尾久美さん）

目標の達成度はどれくらいかと考えたが、達成できたのではないかと思う。タイの保育については、教材開発研修センターの設置によって今後も保育の質の向上を図ることができると思う。スタッフの能力の向上についても同様に思う。

この間、共に生き共に学ぶということで活動にかかわってきた。私自身はスタッフとして、そして通訳としてかかわっているが、通訳を通さなくても分かり合えているものがあるように感じている。日本の講師さんは「子どもたちや参加者に理解されているか」といつも心配してくれるが、受け止めるタイのスタッフの側も素晴らしい講師さんの保育をどう受け止めて伝えようかと一生懸命であり、その思いが伝わっていると思う。同じものを一緒に作ることによって、仲間意識が生まれてくる。タイのスタッフにしたら、発展している日本から来た講師さんが一緒に取り組んでくれる。会場設営まで一緒にやってくれる。このようなことを通して大阪の講師さんに対する信頼関係が生まれる。講師がすごい偉い人ではなく、身近な同じレベルで向き合ってくれる人と受け止めることができる。スタッフに対する「頑張っているね」という声掛けによって自信につながる。



このような中で、東日本大震災の報道を聞いて、シーカーのやめたスタッフも含めて、たくさんの人から大阪の講師さんは大丈夫かとの問い合わせが寄せられた。この間の事業で深い信頼関係が築かれたからだと思う。研修に参加した人からまで心配する電話があったとのことだ。「原発事故で心配だ」との問い合わせもあり、スタッフは「大阪は大丈夫みたい」と答えていたそうだ。国と

国を超えて人と人の関係がしっかりとつながることができた。シーカーとしても大きな意義があった事業だと考えている。

今後、どうつながって一緒に頑張っていけるか。それぞれ国が違うが、自分がかかわっている子どもがよりよい環境の中で育ってほしいという思いでつながっていけるのでは。

異文化をどう理解し合うか

私はシーカーで活動して7年目になり、なぜ日本に帰ってこないのか、タイの何がいいのかとよく言われる。シーカーのスタッフは本当に子どものために頑張っている。スタッフ自身の生活が大変であったから、スラムやミャンマーの移民の子どもを思い、いい環境を提供したいと思っている。そのスタッフと一緒にいることでいい刺激になり幸せと思っている。

大阪マイペンライの講師さんもどうしたらタイの子どもたちのことがよくなるのだろうかと考えてくれる。子育て支援の環境は違うが、同じ話、同じテーマで話しすることが大事だ。

今の子どもたちが大人になるのは5年後か10年後だが、今より一層グローバル化が進んでいるだろう。今でも多文化教育が学校や保育の現場で学んでいる。昨日ある保育所で交流したとき、タイ語で子どもたちに話す「英語」と言われた。子どもにとっては日本語でないものはすべて英語と感じてしまう。それが子どもの理解だ。どう違うのかまだよくわかっていない。そのような中で、「タイやカンボジアの子どもたちは大変なのだ」と大人の視点で言いがちだ。国際教育という時に子どもの視点で、子どもと子どもが人として外国の子どもと向き合うことができる環境が大事ではないか。そういうことができるのが大阪マイペンライではないのか。子どもにかかわるものとして異文化の理解をどう深めるのか。深く人間と人間のつながりを作ることが、今子どもにかかわるものとして大切と感じている。

教材開発研修センターはタイだけでなく、ラオスやカンボジアのスタッフに使ってもらえるように、また、アジアのセンターともしていきたい。また、大阪の保育士さんの研修センターとしても使ってもらえるといい。何年かかるかわからないが夢だ。タイの保育が改善されるだけでなく、日本の子どもの保育も改善してほしいと考えている。

私自身も子どものときつらいと思う時があったが、今の子どもたちはゲームがあってもあまり楽しくなく過ごしているということがあるのではないか。そのような閉塞感をアジアという視点に広げれば変わっていくのではとも思う。

第一歩としてシーカーアジア財団としてブログを始めた。その都度更新しているので見てほしい。また、大阪マイペンライを通じてクラフトを販売しており、買っていただくことで教育支援や子どもたちの活動支援につながるのをよろしくお願いしたい。

2012年招聘研修スタッフプロフィール

招聘先 タイ・シーカーアジア財団(SAF)

- ・同行・通訳 松尾久美 さん(シーカーアジア財団国際部責任者)
- ・氏名: プラニー・ボークラーン さん ニックネーム: ヤイ さん 女性
- 担当: スアンブルー保育園スタッフ

研修希望: これまでマイペンライ派遣の講師による研修会の補助として活動してきている。マイペンライ講師の提唱する子どもの自由・権利を保障する保育のあり方に共鳴するも、スアンブルー保育園での実践とのギャップに悩んでいる。今回の招聘研修において、さらに深く理解し学ぶことで、他のメンバーとも共有し、スアンブルー保育園の保育内容を改善したい。

- ①保育所での活動全般(登所の迎えから、給食、年齢ごとの遊びの組み立て方、保護者・地域との関係づくり)
- ②地域(・地域の環境改善の経緯をしりたい。リーダーシップのあり方、住民の合意形成の取られ方、行政との交渉など。・地域の独自産業について。地域内雇用の促進策としての産業開発)
- ③日本の教育施設の見学(小学校~大学)

- ・氏名: チャイヤナン・チャンタマニーセーン さん ニックネーム: ナン さん 男性
- 担当: パヤオ学生寮スタッフ

研修希望: モン族であり、タイ社会の中の少数民族としての位置づけの厳しさ(タイ人優位)、その中での教育の重要性を深く認識している。モン族中高生の教育機会創出のための寮のスタッフとして、日本の教育のあり方を学び、タイの教育機会の不均等改善の足掛かりとしている。

- ①日本の教育システム（幼児～中等教育） 特に、義務教育の全体普及への工夫
- ②給食（心身の健康を養うための食事）
- ③教育における効率性（教師の育成、学校の配置、辺境地における教育の機会拡充）
- ④自立心をやしなう指導方法

招聘研修スケジュール（2012年6月30日～7月14日）

日程	時間	活動内容
6月30日 土	18:30	関西空港着（TG672） 迎：自動車 ホームステイ先へ ホームステイ
7月1日 日	13:00 ～	オリエンテーション 解放同盟・教組・自治労の運動経過と現状課題 研修スケジュールについて ホームステイ
2日 月	9:30 10:30 13:30 14:00 14:30 15:00 16:00 20:00	摂津市教職員組合 : 車で出迎え 国立民族博物館見学 民博で昼食 摂津市教育委員会へ移動 教育長表敬訪問 移動 摂津市リサイクルプラザ見学 ・給食の残飯を堆肥にしているところやビン・缶のリサイクルを見学 移動 摂津市教組組合事務所にて青年部中心に交流会 移動 夕食 ホームステイ
3日 火	7:50 8:20 15:00 17:00	出発 摂津市立三宅柳田小学校訪問 1時限目～3時限目 給食 5時限目～6時限目 移動・買物（夕食材料買い出し） 歓迎会 ホームステイ
4日 水	9:00 9:30 10:30 11:40 14:00 15:00 17:00 19:00	出発 ハッピーワールド（障害者作業所） 関西ポリテクセンター（関西職業能力開発促進センター） 高齢者・障害者の職業訓練など就労支援 移動・昼食 豊能町職へ引き継ぐ（箕面市にて） 自治労豊能町職 国崎クリーンセンター（豊能町・川西市・能勢町が運営するゴミ焼却場）見学 夕食交流会買物（夕食材料買い出し） 豊能町職夕食交流会（タイ日料理交流） ホームステイ（2つの家庭）
5日 木	9:00 13:00 14:30 15:00 18:00	豊能町立ふたば園（認定こども園） こども達と交流 昼食 移動 自治労大阪市職民生支部 JR摂津富田→阿武山学園（児童自立支援センター）見学 トーコーホテル着 民生支部：夕食交流会 トーコーホテル泊
6日 金	9:00 10:00	ホテル出発 大阪市立大淀保育所見学交流 午後：夏祭り

	18:30 20:30 ~21:00 21:30	自治労大阪府本部保育部会交流会(タイと日本の遊び交流会) 府本部へ出迎え 庄内着	ホームステイ
7日 土	13:30 14:00 ~17:00	大阪市立子育ていろいろ相談センター着・見学 絵本ワークショップ 講師:加藤啓子さん	ホームステイ
8日 日		フリー	ホームステイ
9日 月	9:30 10:00 12:00 13:30 15:30 16:00 17:30	部落解放同盟大阪府連 日之出支部 阪急庄内駅前出迎 日之出解放運動史/現状 市民交流センターひがしよどがわ 昼食 日之出地区フィールドワーク(障がい者会館・希望の家(知的障がい者授産施設)) 東横INN新大阪東口 チェックイン 日之出保護者との交流会:日之出住宅集会所 東横INN新大阪東口泊	
10日 火	9:00 13:30 18:00	日之出保育所見学 昼食 柴島高校:総合学科・国際交流・5者(部落問題研究会・朝鮮問題研究会など 人権にかかわる5つの研究会活動)・太鼓など 日之出支部交流会 東横INN新大阪東口泊	
11日 水	10:00 12:00 13:00	小中一貫校のとりくみ:啓発小学校 昼食 日之出へ迎え	ホームステイ
12日 木	9:30	釜ヶ崎地区フィールドワーク (NPO生活サポート釜ヶ崎、わかくさ保育園、こどもの里ほか)	ホームステイ
13日 金	18:30	セミナー準備 多文化共生セミナー	ホームステイ
14日 土		フリー 夕食後20時ころ出発	
15日 日	0:30	帰国 TG 関西空港発	

会員となって交流の輪に入いませんか！！

新規会員を募集中です。会員になっていただける方は郵便振替用紙でお申し込みください。ご協力よろしくお願いたします。

会員(団体・個人)の皆さんへ 会費納入のお願い

当会の活動は皆さんの会費で支えられています。2012年度までの会費の納入をお願いします。(複数年の未納がある場合は分割可)

宛名シールの名前の横の数字がすでに納入いただいている年度です。(09=2009年度まで納入)
郵便振替や銀行振込でお振込みください。個人の方は年間3000円、団体は年間10000円の納入をお願いします。

郵便振替 □座番号 **00910-4-18125**
加入者名 **アジアの保育教育交流推進実行委員会**
銀行口座 **りそな銀行 桜川支店**
普通預金 □座番号 **2100152**
口座名義 **アジア保育教育交流推進委員会**